



札幌医科大学 附属病院



理学療法士 作業療法士 研修プログラム

新たなPT・OTのキャリア形成

平成 30 年度

募集案内



病院長メッセージ



今日の医療において理学療法・作業療法の重要度はますます高まり、リハビリテーション医療の高度専門化が進んでいます。このような状況を背景とし、リハビリテーション・スタッフに対する、より専門的な教育システムの構築・充実に期待がもたれています。

本学では、昭和58年に札幌医科大学衛生短期大学部を創設し、平成元年には札幌医科大学保健医療学部へと発展的改組を経て今日に至っています。これまでに理学療法士及び作業療法士あわせて1,000名を超える卒業生を送り出してきました。

平成26年に札幌医科大学附属病院では、高度な医療現場のニーズに応えられる人材を育成するため、「札幌医科大学附属病院理学療法士・作業療法士研修プログラム」を策定いたしました。医学部、保健医療学部の教授陣を始めとする教員による指導体制のもと、当院のリハビリテーション部で幅広く実践を積み、専門コースの選択によって高度な知識と技能の修得が可能となっています。すなわち、大学附属病院ならではの教育体制のもとで臨床に密着した研修を行います。今後のリハビリテーション医療における、指導者的役割を担う人材の育成を目指す専門的プログラムです。実務を伴うことから、一定の報酬をお支払いいたします。新卒者から経験豊富な方まで、各個人の目的に応じたコースを選択できるプログラムとなっています。

このプログラムを通じて、専門的な知識・技術を持つ理学療法士・作業療法士が育ち、医療現場において活躍されることを期待します。

札幌医科大学附属病院 病院長 山下 敏彦

新たなPT・OTのキャリア形成

研修の理念

高度化する医療に対応する最先端の理学療法・作業療法を推進するため、基礎的・専門的知識、技術、医療人としての態度などを包括した臨床能力の向上を目指します。

研修の特徴

- ① 大学附属病院という環境を活かし、関連する診療科と連携した診療に参加することで実践的内容を学ぶことができます。
- ② 研修療法士の多様な臨床経験を配慮し、各自の研修目的に応じたプログラムを提供します。

理学療法士・作業療法士研修センター長メッセージ



リハビリテーションは、近年、対象となる疾病ならびに障害の幅が大きく広がり、臓器別診療科の治療と協働して、急性期から生活期まで適切なチーム医療を進めることが求められています。リハビリテーション対象者の心身機能・活動・参加の向上に介入する理学療法士・作業療法士への期待は、これまでも増して高まっており、さらに高度な専門性が要求されるようになりました。

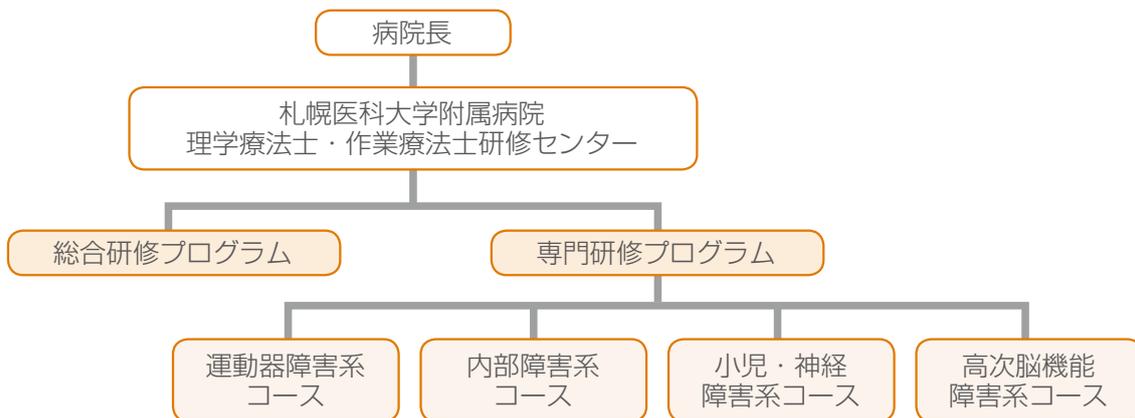
当センターの研修プログラムは、高度化する医療に対応する最先端の理学療法や作業療法を推進していくため、基礎的・専門的知識、技術、および医療人としての態度などを包括した臨床能力の向上を目指しています。理学療法士・作業療法士の養成課程を有する医系総合大学と大学附属病院という環境を最大限に活かし、リハビリテーション科および関連診療科との良好な協力関係を基盤とした研修体制を構築しました。教育と研究を基盤とした研修環境は、エビデンスに基づく科学的な臨床的資質を磨き上げるのに最適です。

研修を希望する理学療法士・作業療法士の多様な臨床経験に配慮し、新卒研修や高度専門研修、および学び直しなどといった柔軟な研修プログラムの選択が可能となっています。経験や専門性に応じて、研修コーディネーターが、最適な研修を推進できる個別プログラムを提供します。

本研修制度は全国に先駆けてスタートしました。本学附属病院、理学療法士・作業療法士研修センターは、これからの理学療法・作業療法を担っていただく方々の新しいキャリア形成に大きく貢献できるように、研修生の皆さんとともにプログラムを発展させていきます。

札幌医科大学附属病院理学療法士・作業療法士研修センター長
札幌医科大学医学部リハビリテーション医学講座 教授 石合 純夫

理学療法士・作業療法士研修プログラムの運営体制



● 中心となる組織の名称

札幌医科大学附属病院 理学療法士・作業療法士研修センター

● 運営体制

責任者は札幌医科大学附属病院長で、研修修了者には、研修修了証を交付します。
理学療法士・作業療法士研修センターは、研修プログラム及び研修計画等の企画・実施を行います。

● 指導体制

各研修プログラムの責任者として、プログラムコーディネーターがプログラムの作成、研修実施、研修修了項目のチェック・評価表の作成を行います。

副センター長メッセージ



高齢化社会における地域医療、そして、複雑高度化する医療など、理学療法・作業療法が大きく貢献できる対象も広がりを見せています。その広がりの中、理学療法・作業療法の専門性をチーム医療で発揮できる素養や専門分化してきた医療現場のニーズに応えていく高度な臨床能力など、求められる能力や専門性も多岐にわたってきました。

しかし、その基本は臨床現場で求められる医療に適切に対応するとともに、学術研究成果を活用した先端的知識、技能を活用することといえます。

本研修センターでは、1) 医系総合大学の教育・研究を基盤とした研修環境で、2) 研修療法士の臨床経験、目的に応じた個別研修を企画し、3) 臨床実務から学び続けていける人材を養成するプログラムを運営しています。

研修コーディネーターにより、研修療法士の学ぶべき内容に応じた医学部・保健医療学部の教授陣、およびリハビリテーション部スタッフで複数の指導者を構成し、個別の研修療法士の充実した研修をすすめる環境を確保しています。専門コースでは関連専門診療科の講師陣による指導も直接うけることができるなど、これまでにない研修環境も整備しています。理学療法士、作業療法士の先進的なキャリア育成としての本研修センターでの研修を経て、今後の活躍を大いに期待したいと思います。

札幌医科大学附属病院理学療法士・作業療法士研修副センター長
札幌医科大学保健医療学部理学療法学第二講座 教授 片寄 正樹

リハビリテーション部 副部長メッセージ



現在、リハビリテーション医療はより高度専門化し、卒前教育の知識、技術のみで臨床の場で十分に対応できる能力を身につけることは困難となってきました。個々の理学療法士、作業療法士は、各勤務先の医療機関内での教育システムや様々な研修会、講習会等へ参加することで、自己努力によりスキルを高め、この状況に対応しています。

このような背景の中、平成26年度より、札幌医科大学附属病院では、理学療法士・作業療法士研修制度を開始しました。先端医療を提供する大学附属病院という環境を活かし、関連する様々な診療科と連携した個別のプログラムを提供することで高度なリハビリテーション臨床能力を身につけることを目指しています。

総合研修プログラムでは、新卒者や先端的理学療法、作業療法の学び直しを希望される方を対象とし、各種疾患別リハビリテーションの基礎的能力を養います。専門研修プログラムでは、運動器障害系、内部障害系、小児・神経障害系、高次脳機能障害系の4つのコースを設置し、各専門性に特化した能力を磨いていきます。

あなたも高い臨床能力を有し、地域のリハビリテーション医療に貢献できる理学療法士、作業療法士をめざしませんか。

札幌医科大学附属病院理学療法士・作業療法士研修センター委員
札幌医科大学附属病院リハビリテーション部 副部長 柿澤 雅史

研修プログラム

目標

昨今の高度化するリハビリテーション医療では、急性期から慢性期にわたる様々な病態に対応する高度な専門的理学療法・作業療法が期待されています。本研修プログラムでは、医師と強い連携が確保された専門化した理学療法や作業療法を推進していくための基礎的・専門的知識と技術、および医療人としての態度などの臨床能力の向上を目的としています。

特徴

札幌医科大学附属病院リハビリテーション部において、実際に勤務しながら研修を受けることから実践的な内容を学ぶことができます。とくに、大学附属病院という先端的医療を担う当院の関係診療科との連携を深めながら研修を実施することにより、専門的な知識を取得することができます。

また、研修療法士の多様な臨床経験や希望する研修内容に配慮し、研修目的に応じた研修コーディネーターを配置した個別プログラムとなっています。

研修プログラム

① 総合研修プログラム

札幌医科大学附属病院リハビリテーション部に所属し、理学療法・作業療法について総合的に学びます。新卒者、および先端的理学療法や作業療法の学び直しを希望される方を対象としています。

② 専門研修プログラム

専門性に応じた4つのコースがあります。この専門研修プログラムは、研修内容に応じ関係診療科と連携した研修をすすめることができます。各コースに関係診療科との連携と専門性を備えた研修コーディネーターを配置しています。



理学療法室



作業療法室

プログラムの概要

① 総合研修プログラム

コーディネーター	柿澤 雅史 (リハビリテーション部 副部長)
対象	理学療法士・作業療法士
概要	<p>理学療法または作業療法全般に関する幅広い知識や技術に限らず、各種疾患別リハビリテーションに対応する基本的な能力を養うことを目指します。</p> <p>研修の初期段階では、基礎的な病態の理解を深め、病態像の把握につながる各種評価方法と検査結果の解釈について学びます。研修の後半では、適切な治療介入を選択する能力を養います。</p> <p>さらにADL場面で認められる障害に対する評価、看護師からの情報提供をもとに、病棟生活における問題点を整理し、評価結果との整合性を追究します。</p> <p>このプログラムでは、新卒者、および先端的理学療法や作業療法の学び直しを希望される方を対象としており、総合的な研修を実施します。</p>
研修期間	原則1年。研修内容によって半年以上2年までの研修期間とすることができます。

研修の様子



② 専門研修プログラム

(1) 運動器障害系コース

コーディネーター	片寄 正樹 (リハビリテーション部 副部長／保健医療学部理学療法学第二講座 教授)
対象	理学療法士・作業療法士
概要	<p>運動器障害の病態、評価、治療に対する専門的な知識を取得し、運動器障害理学療法・作業療法全般に関する幅広い知識や技術を活用し、運動器障害に対する治療チームにおいて自律して活躍できる専門療法士となることを目指します。希望によりスポーツ外傷・障害に対する理学療法を中心とした研修に参加することができます。</p> <p>研修の初期段階では、基礎的な運動器障害で認められる病態の理解を深め、病態像の把握につながる各種評価方法と検査結果の解釈について学びます。研修の後半では、適切な治療介入を選択する能力を養います。</p> <p>さらにADL場面で認められる運動器障害に対する評価、看護師からの情報提供をもとに、病棟生活における問題点を整理し、評価結果との整合性を追究します。</p>
研修期間	原則1年。研修内容によって半年以上3年までの研修期間とすることができます。

(2) 内部障害系コース

コーディネーター	片寄 正樹 (リハビリテーション部 副部長／保健医療学部理学療法学第二講座 教授) 橋本 暁佳 (循環器・腎臓・代謝内分泌内科／医学部病院管理学 准教授)
対象	理学療法士
概要	<p>内部障害理学療法学全般に関する幅広い知識や技術だけではなく、呼吸理学療法や循環器理学療法に関する専門的な能力の取得を目指します。</p> <p>研修の初期段階では、基礎的な呼吸循環機能障害で認められる症状に対する理解を深め、また、病態像の把握につながる各種評価方法と検査結果の解釈について学びます。</p> <p>研修の後半では、得られた結果からどのような治療介入が適切であるのかを学びます。呼吸循環機能障害のみならず、必要に応じて身体機能障害も含めた治療介入方法を選択し、治療経過に合わせて治療介入効果の妥当性について検討します。さらにADL場面で認められる呼吸循環機能障害に対する評価、看護師からの情報提供をもとに、病棟生活における問題点を整理し、評価結果との整合性を追究します。</p>
研修期間	原則1年。研修内容によって半年以上3年までの研修期間とすることができます。

(3) 小児・神経障害系コース

コーディネーター	小塚 直樹 (リハビリテーション部/保健医療学部理学療法学第一講座 教授)
対象	理学療法士・作業療法士
概要	<p>小児発達障害および神経系理学療法学・作業療法学全般に関する幅広い知識や技術に加え、神経障害の病態に対する専門的な理学療法および作業療法を学びます。</p> <p>研修の初期段階では、基礎的な小児発達障害（早産低出生体重児、ハイリスク新生児から引き続く障害）、神経筋疾患を含む神経障害で認められる病態の理解を深め、病態像の把握につながる各種評価方法と検査結果の解釈について学びます。研修の後半では、適切な治療介入を選択する能力を養います。</p> <p>家族を中心としたアプローチの方法、成人の場合は社会復帰を目標としたアプローチの方法についての多くの情報を整理し、病棟生活における問題点を整理し、評価結果との整合性を追究します。</p>
研修期間	原則1年。研修内容によって半年以上3年までの研修期間とすることができます。

(4) 高次脳機能障害系コース

コーディネーター	太田 久晶 (リハビリテーション部/保健医療学部作業療法学第一講座 教授)
対象	作業療法士
概要	<p>高次脳機能障害に対する検査バッテリーから得られる結果および、行動観察から得られる結果をもとに、症状特性についての解釈を行い、作業療法場面での治療介入につなげる過程を学びます。</p> <p>研修の初期段階では、基礎的な高次脳機能障害で認められる症状に対する理解を深め、責任病巣について学びます。また、検査バッテリーの実施方法と検査結果の解釈についても学びます。さらにADL場面で認められる高次脳機能障害に対する観察評価、看護師からの情報提供をもとに、病棟生活における問題点を整理し、検査との整合性を追究します。</p> <p>得られた結果からどのような治療介入が適切であるのか、高次脳機能障害のみならず、必要に応じて身体機能障害も含めた治療介入方法の選択を検討します。治療経過に合わせて治療介入効果の妥当性についても検討します。</p>
研修期間	原則1年。研修内容によって半年以上3年までの研修期間とすることができます。

平成30年度 札幌医科大学附属病院 理学療法士・作業療法士研修プログラム募集要項

1 各プログラムの対象者と募集定員

プログラム		対 象	募集定員
総合研修プログラム		理学療法士、作業療法士	5名程度
専門研修プログラム	運動器障害系コース	理学療法士、作業療法士	
	内部障害系コース	理学療法士	
	小児・神経障害系コース	理学療法士、作業療法士	
	高次脳機能障害系コース	作業療法士	

2 研修期間

平成30年4月1日から原則1年間

3 応募資格

- (1) 理学療法士免許または作業療法士免許を持つ者
- (2) 第53回理学療法士国家試験または第53回作業療法士国家試験の受験予定者

4 募集期間

平成29年8月1日(火)～9月15日(金)まで ※必着

5 応募方法

下記の応募書類を郵送または持参により提出してください。

(1) 提出書類

- ① 札幌医科大学附属病院研修理学療法士・作業療法士 願書(様式指定)
- ② 卒業(見込)証明書
- ③ 国家資格免許証の写し
- ④ 履歴書(様式自由)
- ⑤ 研修承諾書(社会人として在職のまま研修療法士となる場合)(様式指定)
- ⑥ 推薦書(様式指定) (*総合研修プログラムに応募する新卒者のみ)

※「札幌医科大学附属病院研修理学療法士・作業療法士 願書」、「研修承諾書」及び「推薦書」は札幌医科大学附属病院理学療法士・作業療法士研修センターホームページからダウンロードしてください。

URL: <http://web.sapmed.ac.jp/ptot-tracen/program.html#program1>

(2) 提出先

〒060-8543

札幌市中央区南1条西16丁目 札幌医科大学附属病院 リハビリテーション部

※ 郵送の場合は、封筒の表面に「研修療法士願書在中」と記入してください。

持参の場合 受付時間: 9時～17時(ただし、土曜日、日曜日及び祝祭日は受け付けません。)

郵送の場合 募集期間内に必着とします。

(3) 事前連絡

志願者は事前にプログラムコーディネーターに連絡し、希望する研修の実現が可能かどうか確認してください。

研修プログラム	プログラム コーディネーター	内線	メールアドレス
総合研修プログラム	柿澤 雅史	36870	kakizawa@sapmed.ac.jp
専門研修 プログラム	運動器障害系コース	片寄 正樹	29720
	内部障害系コース	片寄 正樹	29720
	小児・神経障害系コース	小塚 直樹	78780
	高次脳機能障害系コース	太田 久晶	28450

代表電話番号011(611)2111(内線36870)

6 選考方法

面接試験を実施の上、合格者を決定します。

(1) 選考試験実施日 平成29年10月17日(火)

(2) 試験会場 札幌市中央区南1条西17丁目 札幌医科大学
(具体的な時間と場所はメールにて個別に連絡します)

7 結果通知

平成29年10月下旬、順次郵送にて結果を通知します。

8 処遇

当プログラムの研修期間の処遇については次のとおりです。

区 分	処 遇 内 容
常勤・非常勤の別	非常勤(日々雇用職員)
給 与	・給料： 8,487円/日(業務経験年数6年未満の場合) 10,598円/日(業務経験年数6年以上の場合) ・通勤手当：有
勤 務 時 間	・月～金曜日 8:45～17:30 (時間外勤務及び休日勤務は原則なし)
休 暇	(1)年次有給休暇 全労働日の8割以上勤務した場合に付与する。 2か月間継続勤務3日、6か月間継続勤務7日(通算10日) (2)夏季休暇：無、年末年始：有、その他休暇：有
社 会 保 険 ・ 労 働 保 険 の 扱 い	・公的医療保険：健康保険 ・公的年金保険：厚生年金 ・労働者災害補償保険法の適用：有 ・雇用保険：有
理学療法士・作業療 法士賠償責任保険	病院において加入しない 個人加入：任意
外 部 研 修 活 動	学会、研究会等への参加：可 学会、研究会等への参加費用支給：無

9 問い合わせ先

札幌医科大学附属病院理学療法士・作業療法士研修センター

Email: ptot-center@sapmed.ac.jp

電話：011-611-2111(代表)(内線36870) FAX：011-621-8059

※パソコンのメールアドレスをお持ちの方は、できるだけパソコンのメールアドレスからご連絡ください。

その他の詳細については札幌医科大学附属病院ホームページをご覧ください。

<http://web.sapmed.ac.jp/hospital/>

センター委員

〈センター長〉 石合 純夫(リハビリテーション部 部長/医学部リハビリテーション医学講座 教授)

〈副センター長〉 片寄 正樹(リハビリテーション部 副部長/保健医療学部理学療法学第二講座)

〈委 員〉 柿澤 雅史(リハビリテーション部 副部長)

太田 久晶(リハビリテーション部 副部長/保健医療学部作業療法学第一講座 教授)

池田 望(リハビリテーション部/保健医療学部 作業療法学第二講座 教授)

小塚 直樹(リハビリテーション部/保健医療学部 理学療法学第一講座 教授)

橋本 暁佳(循環器・腎臓・代謝内分泌内科/医学部病院管理学 准教授)

村上 孝徳(リハビリテーション部 副部長/医学部リハビリテーション医学講座 講師)

～平成28年度修了生の声～



理学療法士 後藤 凌介 さん (総合研修修了) (柏葉脳神経外科病院)

総合研修プログラムでは、各種疾患の病態理解、理学療法評価・治療を経験します。そして、その過程を症例レポート・報告会にて、客観的に呈示し、妥当性について議論することで、臨床能力向上を図ります。この研修では、運動学・解剖学・生理学等、基礎的な知識を用いて、病態を整理し、理学療法が何に対して、どのような結果を、なぜ及ぼしたのかを追求することを学びました。今後は、臨床・研究等、幅広い分野に興味を持ち、この経験を活かしたいと考えています。



理学療法士 宮崎 輝光 さん (総合研修修了) (筑波大学大学院)

この研修を通し、様々な病態の患者様に対する理学療法を経験できました。特に、ICU管理中や術直後の患者様に対しての介入は、貴重な経験となりました。介入する上で病態・治療方針の理解不足が、患者様の不利益に直結してしまいます。そのため、介入の目的・効果を十分に考慮する必要があります。介入前後には、経験・知識豊富な理学療法士から十分な指導を受けることができ、不足している知識・考えが明確となります。新卒の理学療法士にとって非常に良い環境であると考えます。



作業療法士 宍戸 快 さん (総合研修修了) (北海道立子ども総合医療・療育センター)

私が養成校を卒業後、OT1年目に札幌医科大学附属病院の研修プログラムを終えて感じていることは、この研修を受けてよかったということです。OTとしても社会人としても一年目であった私にとって、ここでの臨床経験や尊敬する先輩方との出会いを通じた社会経験はいろいろなことを学びました。また研修を通じて、中枢分野に限らず整形・神経難病・小児など幅広い疾患を数多く経験できたことは、自分の視野を広げることができて、少しずつ作業療法士としてのやりがいを感じるようになりました。



理学療法士 才崎 和哉 さん (専門研修運動器障害系コース修了) (麻生整形外科病院)

この研修制度への参加を考えたきっかけは、自分の行なっている評価や治療が本当に正しいのか疑問に思ったからです。経験年数を重ねるごとに自分の考え方に患者様の病態を当てはめようとするのがあり、病態を理解した「つもり」で理学療法を行っていたことに、研修制度に参加して気付かされました。研修では患者様一人一人の病態を理解して、その状況に応じた評価や治療プログラムを提案することの重要性、難しさを学ぶことが出来ました。この経験を活かして、病院での理学療法やスポーツ現場での活動でも研鑽を積んでいきたいです。



理学療法士 逸見 瑠生 さん (専門研修運動器障害系コース修了) (弘前大学医学部附属病院)

臨床実務では、多様な運動器疾患を担当します。指導者のサポートもあり、病態に応じた理学療法を思考し、相手に伝えることが以前よりも出来るようになりました。

大学附属病院という環境は専門性を有する他職種との関わりが多く、ディスカッションを通してチーム医療にどう貢献していくかを学びます。他にも、英語論文抄読会や大学教諭・大学院生との勉強会など臨床以外でも学ぶ機会が多いことも、大学附属病院での研修の特色だと思います。



理学療法士 清藤 恭貴 さん (専門研修内部障害系コース修了) (札幌医科大学附属病院)

今回参加した研修は、循環器の領域を主として、臨床を通じた研修時間を多く与えて頂きました。また、医師間のカンファレンスへの参加や、病棟主治医や病棟看護師を始めとした多職種の方々との情報交換を密に行うことも出来ました。多職種の様々な思考過程を学ぶことが出来たのもこの研修の大きなメリットであったと考えています。1年間で学んだ事を引き続き自己学習しながら、更に向上できるように日々の臨床に励んでいきたいと考えています。

病院概要

名 称	北海道公立大学法人 札幌医科大学附属病院					
所 在 地	北海道札幌市中央区南1条西16丁目291番地					
診 療 科 数	【28診療科】 消化器内科／免疫・リウマチ内科／循環器・腎臓・代謝内分泌内科／呼吸器・アレルギー内科／腫瘍内科／血液内科／神経内科／消化器・総合・乳腺・内分泌外科／心臓血管外科／呼吸器外科／整形外科／脳神経外科／神経再生医療科／婦人科／産科周産期科／小児科／眼科／皮膚科／形成外科／泌尿器科／耳鼻咽喉科／神経精神科／放射線治療科／放射線診断科／麻酔科／総合診療科／歯科口腔外科／リハビリテーション科					
	【中央部門】 薬剤部／検査部／病理部／放射線部／手術部／医療材料部／リハビリテーション部／高度救命救急センター／集中治療部／医療安全部／感染制御部／臨床工学部／看護部／医療連携福祉センター／栄養管理センター／臨床研修・医師キャリア支援センター／看護キャリア支援センター					
病 床 数	938床（一般病床890床 精神病床42床 結核病床6床）					
平成28年度 診 療 実 績	入 院	入院延患者数	280,830人	外 来	外来延患者数	421,742人
		1日平均患者数	769.4人		1日平均患者数	1735.6人
		新規入院患者数	18,305人		手 術	手術件数
			1日平均手術件数	30.6件		



札幌医科大学附属病院 理学療法士・作業療法士研修センター

〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目291番地

電 話：011-611-2111（内線：36870）

FAX：011-621-8059

メール：ptot-center@sapmed.ac.jp